

# 2018年3月期\_第1四半期 決算補足資料

2017年8月9日

(本資料の数字は1億円未満を四捨五入で表示しています。  
四捨五入の関係で、合計が合わない場合があります。)

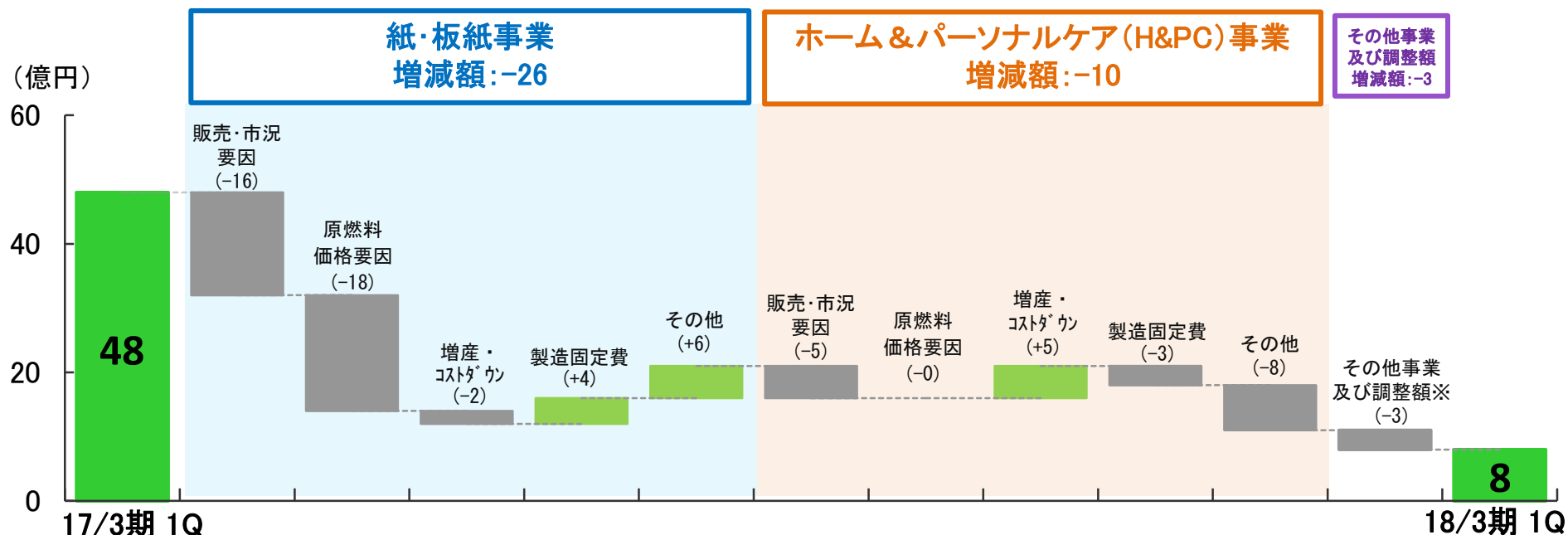
業績概要	2017年3月期 1Q		2018年3月期 1Q		増減	
	売上比		売上比		増減率	
売上高	1,136		1,249		113	9.9
営業利益	48	4.2	8	0.6	-40	-84.3
経常利益	33	2.9	2	0.2	-31	-93.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12	1.1	8	0.6	-4	-35.6
減価償却費	71		77		6	7.8
設備投資額	75		77		2	2.6
※為替レート(期中平均レート):	108.1円/ドル		111.1円/ドル		3.0円/ドル	
※ドバイ原油(期中平均価格):	43.3ドル/バレル		49.7ドル/バレル		6.4ドル/バレル	

財務状況	2017年3月末	2017年6月末	増減
純有利子負債	2,551	2,944	393
自己資本比率	26.8 %	26.2 %	-0.6
ネットD/Eレシオ	1.4	1.7	0.3

## 注記

※ 当第1四半期連結会計期間より、株式取得に伴い、ダイオーペーパープロダクツ株式会社及び同社子会社である3社(東海製紙工業株式会社、ダイオーポスタルケミカル株式会社、大和紙工株式会社)、並びに三浦印刷株式会社を連結の範囲に含めています。また、2017年4月1日付でエリエールプロダクト株式会社(連結子会社)の紙製品事業を会社分割により承継したエリエールペーパー株式会社(非連結子会社)を重要性が増したため、連結の範囲に含めています。これにより、連結子会社は30社(2017年3月末)から36社(2017年6月末)となりました。

**-40億円** (2017年3月期 1Q: 48億円 → 2018年3月期 1Q: 8億円)



	紙・板紙	H&PC	その他※	計
販売・市況要因	-16	-5	-	-21
原燃料価格要因	-18	-0	-	-18
増産・コストダウン	-2	5	-	3
製造固定費	4	-3	-	1
その他	6	-8	-3	-6

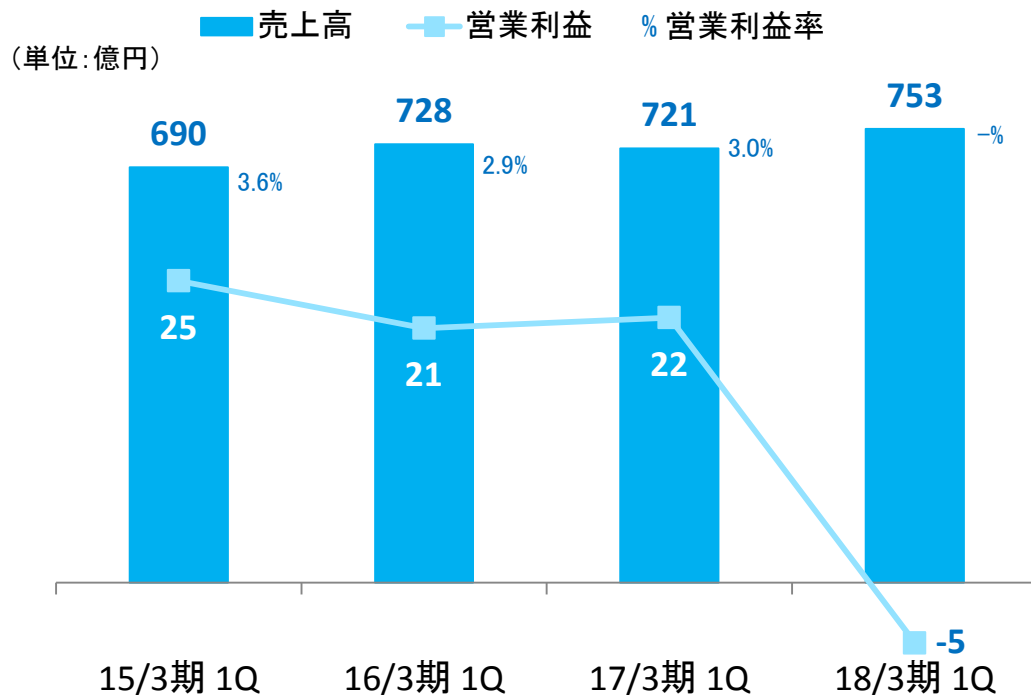
紙・板紙 主な要因
品種構成改善+3、単価-19
古紙-17、重油-2、チップ+1
増産・省エネ+1、歩留・配合-3
修繕費+1、労務費+1
在庫移動平均+5、 拡販による物流費増+1

H&PC 主な要因
数量+4、単価-9
パルプ+1、SAP等-1
増産+6、歩留・配合 他-1
労務費-1、減価償却費-1、修繕費他-1
拡販による物流費増-2、 海外拡販による販促費増 他-12、 M&A、為替差益 他+6

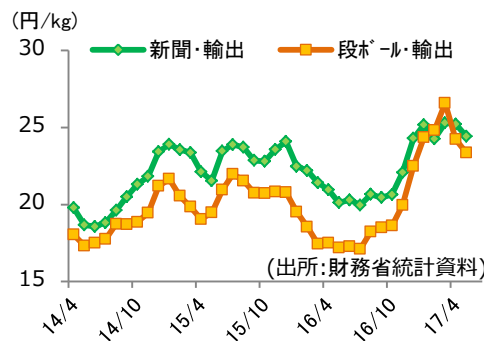
<b>営業利益増減 計</b>	<b>-26</b>	<b>-10</b>	<b>-3</b>	<b>-40</b>
増益要因 計	9	5	-	15
減益要因 計	-36	-16	-3	-55

※「その他」の区分は「その他事業」及び「調整額」の合計です。「その他事業」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、木材事業、造林事業、機械事業、運送業、売電事業、ゴルフ場事業、駐車場事業及び不動産賃貸事業等を含んでいます。「調整額」についてはセグメント間取引消去に係る調整額です。

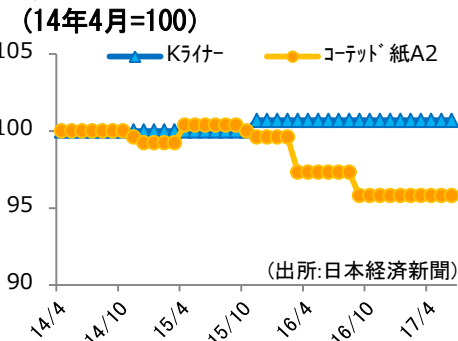
# セグメント別業績概要(紙・板紙)



## A) 古紙価格動向



## B) 製品価格動向



- ◆ 古紙価格の上昇による原材料コストの増加、及び洋紙の国内市況価格下落の影響により、営業利益は-5億円の損失となった。
- ◆ 洋紙、板紙、段ボールの値上げ、及び継続したコストダウンを進めていく。

## 増減額(率)

売上高	+32 (+4.4%)
営業利益	-26 (-%)

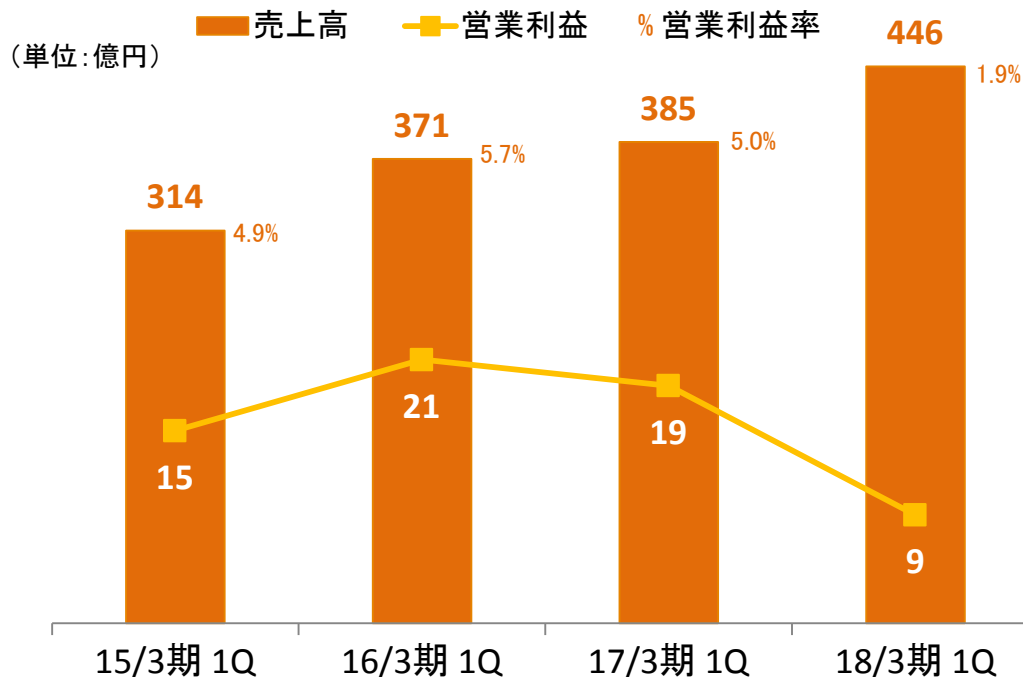
## 主な増減要因

販売・市況要因	-16
原燃料価格要因	-18
増産・コストダウン	-2
製造固定費減	+4
その他	+6
計	-26

## 主要品種

主要品種	前年同期比		
	数量	金額	主な要因
洋紙	-	-	- 新聞の発行部数減少 - 国内市況価格下落の影響
板紙・段ボール	+	+	+ 通販や加工食品分野等の需要増

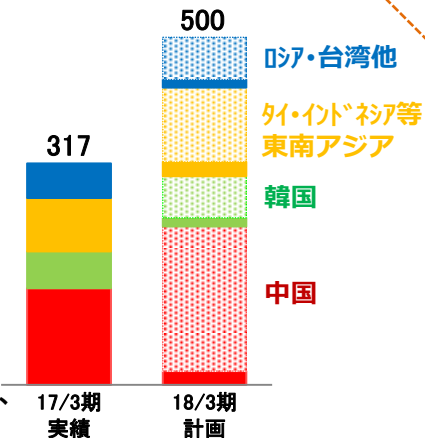
# セグメント別業績概要(H&PC)



## ◆海外売上高

・3月以降(2Q以降に反映)の販売実績は前年を大きく上回るペースに回復しており、売上・利益ともに順調に推移する見込み。

■ 実績(18/3期は1Q累計実績)  
 ■ 18/3期2Q-4Q累計見込み



## ◆H&PC国内事業

・すべての商品カテゴリーにおいて、販売数量・金額ともに前年同四半期を上回りました。(下表参照)

◆ただし、主に中国の販売促進費用が一時的に高まった影響を受け、営業利益は前年同四半期を10億円下回った。

※中国、タイ、インドネシアは決算期が1-12月のため、1-3月実績が当社グループの1Q実績に反映されます。

増減額(率)		主な増減要因	
売上高	+61 (+15.8%)	販売・市況要因	-5
営業利益	-10 (-54.5%)	原燃料価格要因	-0
		増産・コストダウン	+5
		製造固定費増	-3
		その他	-8
		計	-10

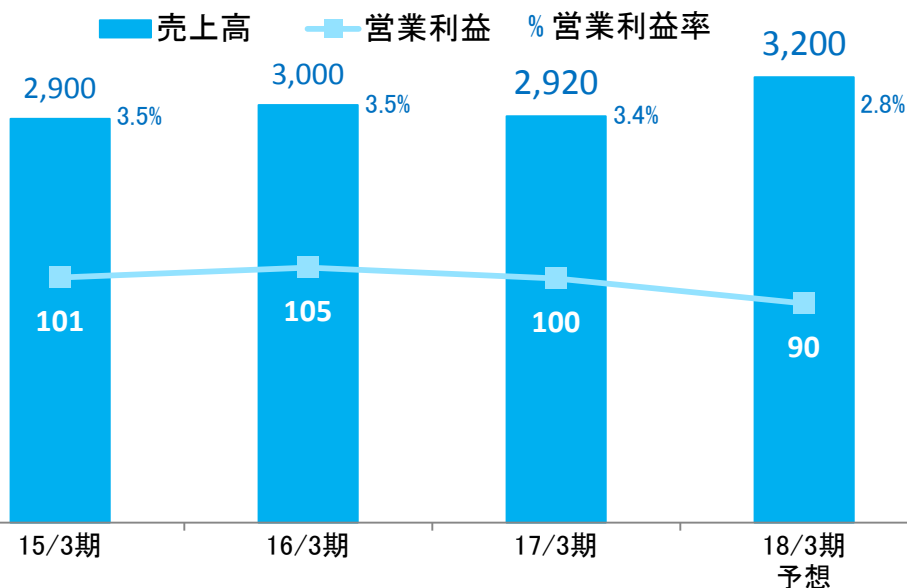
品種別販売金額増減要因		
衛生用紙	+	+日清紡ホールディングス株式会社からの紙製品事業の譲渡による販売拡大 +付加価値品の販売好調
ベビー用紙おむつ	+	+新生児用(テープタイプ)とSサイズ(パンツタイプ)の販売強化
うち海外事業	+	-中国:前四半期(10~12月)に大きく販売が伸長した反動で1~3月は減販となったが、3月以降は前年を大きく上回るペースに回復している +ASEAN諸国:ミニマーケット業態で大きく配荷拡大したインドネシア、新規配荷と合わせ店頭活動強化したタイやベトナム、マレーシア等で拡販が進んだ +ベビー用紙おむつ以外の商品カテゴリーの拡販も寄与(中国・韓国での大人紙おむつ、タイでのウェットワイプ等)
大人用紙おむつ	+	+業務ルートで新規獲得が堅調に推移 +市販ルートでは、下着のように快適な装着感を提供する新商品発売により、新規ユーザーの獲得が進んだ
フェミニンケア	+	+リニューアルしたスリムナプキン「elis Megami」のプロモーションと連動した売場獲得によるトライアル促進 +吸水ケア商品の配荷拡大

# セグメント別業績予想

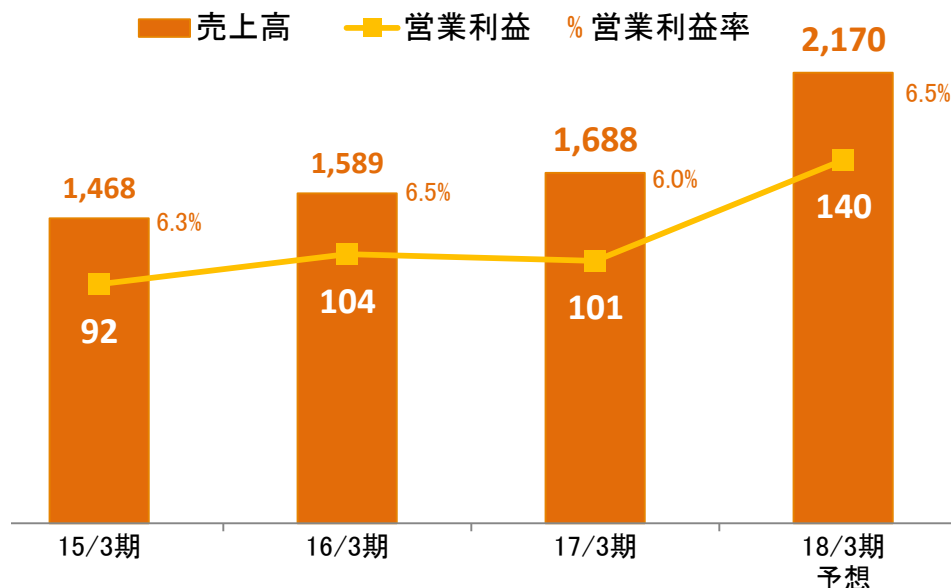


(単位: 億円、%)

## 紙・板紙事業



## H&PC事業



### 1Q実績

### 上期予想

### 下期予想

### 通期予想

	1Q実績			上期予想			下期予想			通期予想		
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率
<b>紙・板紙</b>	753	-5	-%	1,570	20	1.3%	1,630	70	4.3%	3,200	90	2.8%
(前期実績)	721	22	3.0%	1,439	53	3.7%	1,481	47	3.2%	2,920	100	3.4%
<b>H&amp;PC</b>	446	9	1.9%	960	40	4.2%	1,210	100	8.3%	2,170	140	6.5%
(前期実績)	385	19	5.0%	777	42	5.4%	911	59	6.5%	1,688	101	6.0%
<b>その他(調整額含む)</b>	50	4		70	10		60	10		130	20	
(前期実績)	30	7		69	18		95	16		164	34	
<b>計</b>	1,249	8	0.6%	2,600	70	2.7%	2,900	180	6.2%	5,500	250	4.5%
(前期実績)	1,136	48	4.2%	2,285	112	4.9%	2,486	123	4.9%	4,771	235	4.9%

※ M&Aによる貢献(通期売上高450億円、営業利益27億円)については、紙・板紙、H&PC、その他のそれぞれのセグメントに含めております。

## 将来見通しに関する注意事項

- ※ 本資料に記載されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記載されている将来の見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。